

台風対策について

J A東京中央 本店 営農支援課

台風の接近に伴い、大雨や暴風に注意する必要があります。最新の台風情報入手し、台風に備えてください。

1 基本的留意点

(1) 最新の情報を入手する

台風は急にスピードや進路が変化する場合があります。常に最新の台風情報を利用して下さい。

(2) 暴風雨になってからの作業は中止する

荒天時に圃場に出かけ、怪我をする場合があります。台風は中心から離れていても、突風被害等をもたらすこともあるので、荒天になる前にひととおりの準備や対策を済ませて下さい。

2 作目別対策

(1) 施設関係（野菜、花卉）

① 鉄骨ハウス

- ・ドア・天窓等の戸締りを確認する。手動式の場合は開閉用チェーンを固定する。

② パイプハウス

- ・施設内に作物がなく、外張り資材を外せる場合は事前に外しておく。
- ・作物があり、外張り資材を外せない場合は、サイドビニールをおろし、妻部分もビニールを張る。被覆資材が破れている箇所は修繕しておく。
- ・風が吹き込まないようにマイカー線を締め直し、スジカイや支柱を入れて補強する。
- ・近くにビルや高い木があり、吹き下ろしの風がある場所では、足場パイプなどで支柱を補強する。
- ・浮き上がり防止策として杭をしっかりと打ち込み、ビニール押さえのハウスバンドを張りなおす。
- ・非常に風が強く、パイプハウスがつぶれそうな時は、風下からビニールを切り外し、骨組みの保護と二次災害の防止を最優先する。
- ・ビニールを切る場合は、中の農作物は生育ステージにより収穫皆無となる恐れがあるので慎重に行う。可能なら中の作物を不織布で覆うと良いが、台風通過後はできるだけ早く被覆資材は取り除く。
- ・ビニール固定用スプリングを確認しておく。
- ・ハウスの周囲は整理、整頓を行い、施設周辺の資材や看板などを片付けておく。飛ばされて、ビニールハウスを破損させないようにする。

③ 寒冷紗・サンサンネットトンネル

- ・現在最も利用されているものですが、風に飛ばされやすいものです。トンネルの裾の被覆資材の上に土のう袋を置いたり、マイカー線を廻すなどしてトンネルが飛ばされないようにして下さい。

(2) 野菜

①事前対策

- ・キャベツ、ブロッコリーなど秋野菜の苗物やコマツナなどの草丈の低い野菜は、寒冷紗などのべたがけ資材で覆い、しっかりと固定し強風による傷みを防止する。べたがけの固定には肥料袋に土を入れ重石とすると効果が高い。
- ・ナスやピーマンなど収穫できる果実は、事前に若くても収穫して株の負担を軽くする。
- ・定植間もないブロッコリー、キャベツ、またサトイモなどは可能なかぎり土寄せする。
- ・インゲンなどつる性のもので、支柱を倒すことが可能な作物では、上から寒冷紗等で覆い、吹き飛ばされないようにする。台風後なるべく早く起こす。
- ・支柱を倒すことが不可能な作物（ナスなど）では、支柱が倒されないように補強し、葉が風で破れないように防風ネットで囲むか、寒冷紗等で覆う。
- ・背の高い作物（秋トウモロコシ等）では、可能ならば防風ネットを張る。また、支柱が倒されないように補強しておく。
- ・圃場の周辺に溝を切るなど排水対策を講じる。

②事後対策

- ・台風の被害は強風と大雨による機械的障害と同時に冠水、滞水による湿害が大きい。
- ・高温と過湿により根が傷み、草勢が衰えがちになるため、台風通過後は速やかに排水をはかり、根の窒息、湿害を防ぐ。
- ・倒れた作物はできるだけ早く起こし、寒冷紗など被覆したものを取り除き、むれないようにする。
- ・強風雨で受けた傷から、病原菌が侵入し病害が発生しやすくなる。病害虫防除指針などで、登録の有無を確認して、病害の発生を防ぐようにする。
- ・大雨通過後には中耕で通気を良くすると共に、追肥により肥料を補給する。

(3)花 卉

- ・開花寸前で出荷可能なものは、早めに採花し、水揚げし、出荷に備える。
- ・風などによる倒伏を防止するため、支柱を増やしたりし、支柱の補強を行う。
- ・生育初期の苗などは寒冷紗などで被覆を行う。
- ・風などでいったん曲がると元通りに直りにくい品種（スターチス等）は、支柱を増やし、支柱が倒されないように補強を入れておく。
- ・露地の鉢物や苗物等は、防草、防根シート等の固定を確認する。一時的避難可能なものについては施設内へ移動する。

園芸施設(ビニールハウス、温室)の台風・強風対策

1. 台風接近までに行う事前対策(1~2日前まで)

①戸締り・補強等の対策(温室・ハウス共通)

- ・台風が接近してきたら、よく見回って戸締りをしっかりと行う。
- ・天窓、換気扇、出入り口等、外部と通じている部分はしっかりと固定する。

②飛来物等への対策(温室・ハウス共通)

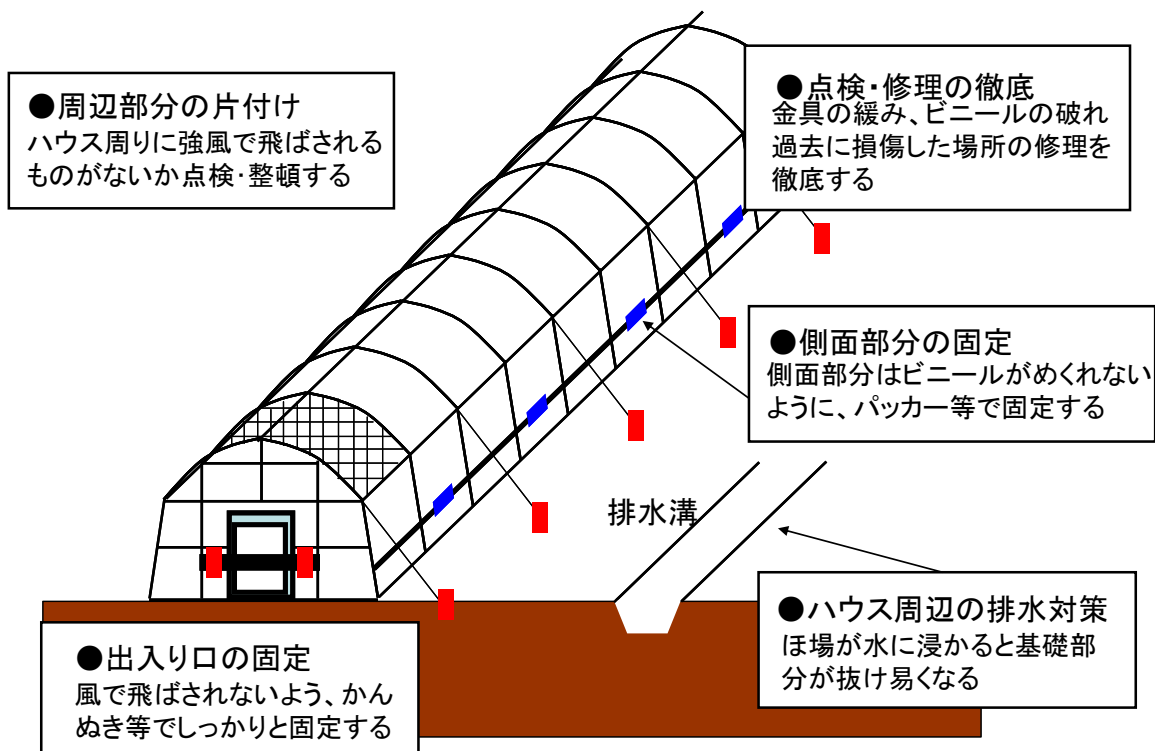
- ・風に飛ばされたものがハウスに当たり破損する場合も多いので、施設周辺は良く整理し飛ばされ易いものは片付けておく。

③強風への対応(パイプハウス等)

- ・マイカー線使用のハウスは、締め付けを十分にし、時々点検し増し締めを行う。
- ・出入り口の扉(戸車)を点検し、強風で外れない様しっかりと固定する。
- ・側面部分は被覆材がめくれない様パッカー等で固定する。

台風接近前の対策

強風に耐えられないことが予想される場合には、あらかじめ被覆のビニールを除去し、パイプのみにすることで、施設の破損は免れる



④ガラス温室・屋根型ハウス等の強風対策

- ・アルミサッシ等の施錠できる**出入り口は、しっかりと鍵を閉める。**
- ・ガラスが風圧そのもので破損することは比較的少ない。風に飛ばされたものが当たり破損するケースが多いので、温室周辺は良く整理し、風に飛ばされやすいものは事前に片付けておく。
- ・風が強く吹き抜ける場所では、あらかじめ防風ネットを設置しておく。
- ・天窗を閉めた状態でも隙間がある場合には、強風時に破損する恐れが高いため、完全に密閉できるように**普段からメンテナンスを怠らない**ようにする。

⑤周辺の施設・機械の点検(温室・ハウス共通)

- ・ハウス周辺の排水対策をしっかりと行っておく。ほ場が水に浸かるとハウスの基礎部分の強度が低下し抜け易くなってしまふ。

II. 台風襲来直前の施設管理

(台風通過中は人命優先とし、原則的に無理な作業は行わない)

- ①**台風の進行方向や風速をテレビ・ラジオ等で確認し、風の方向に注意**する。
- ②施設内部や外部の補強作業の際には、必ずヘルメットを着用し、安全を図る。
- ③窓の自動開閉装置、暖房器、開閉式換気装置等の**電源は切っておく**(台風通過中に窓が開かないように)。なお、**換気扇の設置してあるビニールハウス**では、それを稼働させ、ハウス内気圧を下げるように努め、被覆資材の浮き上りを防止する場合もある(ただし、風が弱くなった場合は被覆資材が引き込まれ、反対に破損の恐れがあるので、直ちに停止)。
- ④**被覆資材が新しい場合にはあくまでも風を入れないように**努める。被覆資材が古くなっている場合には、被覆材が破れ始めると風をはらんでハウスが倒壊しやすくなる。骨材保護の為、事前に積極的にビニールを破った方が、被害が少なくなる場合もある。

III. 台風通過後の事後対策

- ①**台風通過後は早急に施設を見回り、破損箇所があった場合は補修**する。
- ②窓の自動開閉装置の電源は元に戻し、**換気を図り施設内の高温を防止**する。
- ③施設及び施設周辺の排水を積極的に図る。
- ④作物に対する当面の対策
 - ・傷口より病原菌が侵入しやすいので、天候を見計らって薬剤散布を行う。
 - ・作物によっては即効性の窒素・カリを利用し草勢の回復を図る。液肥の施用や葉面散布を行うのも効果がある。